

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 月曜・2校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	経済と経営(会計学入門) Economics and Business (accounting)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 林川美由樹/Eメールアドレス:hmiyuki@nagasaki-u.ac.jp/研究室: 経済学部本館308/TEL: 095-820-6386(内線 386) / オフィスアワー: 毎週水曜日 10:30～12:00(片淵キャンパス)			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法) /授業到達目標 (500 文字) 授業のねらい: 会計の基本的役割を理解するとともに、社会科学分野の問題提起の方法を身につける。 授業方法: 講義を受けテキストの基礎内容をインプットしながら、定期的にレポートにまとめアウトプットすることで理解度を高める。 授業到達目標: 会計の基本的役割の理解と他者への説明を可能にすること。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300 文字) 授業内容(概要) 第1回 イントロダクション 第2回 会計報告の役割(1)～会計説明責任 第3回 会計報告の役割(2)～投資意思決定有用性 第4回 期間損益計の必要性和発生主義会計 第5回 発生主義会計と現金主義会計～キャッシュフロー会計の意義と問題 第6回 会計報告の新たな役割～コーポレートガバナンスの企業情報開示の関係 第7回 新たな会計対象の出現～無形資産会計の可能性 第8回 無形資産会計の諸問題～認識・評価・開示について 第9回 中間試験 第10回 グローバル化と会計基準の問題～コンバージェンスの動向について 第11回 企業結合問題と会計制度について 第12回 公正価値問題と会計制度について 第13回 社会科学としての会計研究の可能性と限界(1)規範アプローチ 第14回 社会科学としての会計研究の可能性と限界(2)実証アプローチ 第15回 総括			
キーワード	会計、説明責任、投資意思決定、国際会計、簿記、		
教科書・教材・参考書	テキストは後日指定する。その他、必要に応じて資料を配布する。		
成績評価の方法・基準等	講義中の課題:30% 中間試験:20% 期末試験:50%		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ /学習・教育目標	会計制度の具体的知識の習得のみを目標とせず、広く社会科学全般の問題提起を自ら行うことができるようになることを目標とする。したがって自然科学、社会科学等の分野を問わず、あらゆる専攻の学生に受講してもらい活発な意見交換の場になることを目指す。		
備考(準備学習等)	受講前に桜井久勝『会計学入門(第3版)』日本経済新聞社(2006 年)に目を通しておくことが望ましい。		